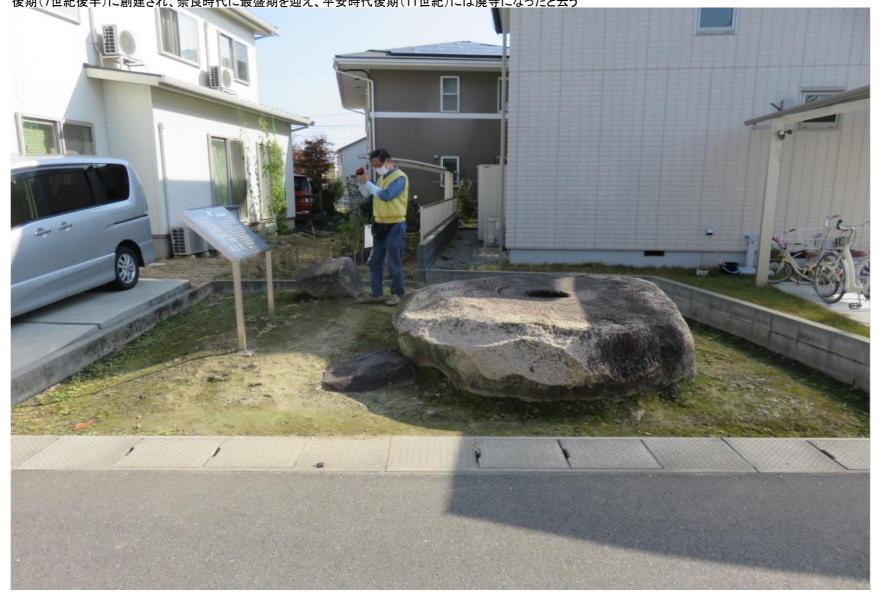
幡多廃寺塔跡(岡山市)

幡多廃寺塔跡に立っていた説明板/このエリアは古代吉備の豪族であった上道氏の氏寺跡で、岡山県下最大という巨大な塔の礎石(心礎)が現存している



これが塔心礎/心礎は長径2.6m・短径2.1mの花崗岩製/心礎の表面には被熱痕があり、火災によって塔が倒壊した可能性が推測されている/飛鳥時代 後期(7世紀後半)に創建され、奈良時代に最盛期を迎え、平安時代後期(11世紀)には廃寺になったと云う







南から、南大門・中門・塔・金堂・北門が一直線上に並び、講堂が脇に建っている/周辺には備前国府跡・賞田廃寺跡・居都廃寺跡もあって、古代の 備前国の中心だったらしい 4,4 南大門 建物跡 調査坑の場所

参考ホームページ

https://tabi-mag.jp/ok0289/

https://www.city.okayama.jp/museum/kodai-jiin/06.html

https://tabioka.com/ruins-of-pagoda-hata-hajji/

https://blog.goo.ne.jp/rekishi-nazo/e/0a45c05fa20e690a9d77df2dfa69fd9f

https://sogensyooku.hatenablog.com/entry/2021/01/11/214308

